

## 書誌学の源泉、コンラート・ゲスナー『万有書誌』

雪嶋 宏一

早稲田大学教育・総合科学学術院

コンラート・ゲスナー (Gessner, Conrad, 1516-1565) はチューリヒでラテン語とギリシア語の基礎を学び、ツヴィングリの宗教改革に大きな影響を受けた。1532年からフランス各地に留学し、ローザンヌ、モンペリエを経て1541年にバーゼル大学で医学博士号を取得して故郷に帰還した。1543年春フランクフルトの書籍大市に出かけ、夏にヴェネツィア旅行、1545年夏にアウクスブルク、秋にザンクト・ガレンを訪問した。その後、チューリヒのカロリヌム学校教授、市医、聖堂参事会員となるが、1565年12月にペストに斃れ亡くなった。代表作は『植物誌』、『万有書誌』、『動物誌』、『ミトリダテス』等。またストバイオス、ガレノス、ディオスコリデス等のギリシア古典を校訂した。

ゲスナーは1545年から著者名目録『万有書誌』、分類目録第1冊『総覧』(1548)、分類目録第2冊『神学の分類』(1549)を編纂し、さらに著者名目録『補遺』(1555)を刊行した。また、弟子のジムラー (Simmler, Josias, 1530-76) が『簡略版』(1555)等を刊行した。一連の『万有書誌』は20世紀前半から研究が進められてきたが実証的な研究は多くない。

チューリヒ中央図書館所蔵のゲスナー手沢『万有書誌』(Dr M 3)のf. 454vとf. 455rの下方マージンに貼付された紙葉が『万有書誌』の他のコピーのf. 454vの4-32行にあたるのが判明して印刷ヴァリエーションが明らかになった。折丁2gの印刷が終わった後で、ゲスナーは文章を訂正してf. 453r-454v(折丁2g3-4)の組版を作り直して該当のシートを差し替えたのである。

『万有書誌』編纂のためにゲスナーは様々な情報源から著者の情報を収録した。主要な情報源は、聖職者、古代著者、医学者、法学者、古典学者、詩人に関する文献と図書館蔵書・蔵書目録、印刷業者の印刷販売書目録、同時代の著者である。最も重要な情報源はトリテミウス (Trithemius, Johannes, 1462-1516)の聖職者目録であったが、ゲスナーはそれを著作の記述を主体とする著者名目録(名・姓順)に作り変えたのである。

『万有書誌』の書誌記述要素は、ギリシア語写本については著者名、書名、所在地・図書館名である。印刷本については著者名、書名、印刷地、印刷業者、印刷年、判型、シート数、索引の有無、序文の抜粋、内容注記等である。このような書誌記述はゲスナー以前にはわずかに印刷業者の印刷販売書目録に見られるのみである。ゲスナーは印刷本の版の違いを示すためにこれらの目録記述法を学び、改良したと言えよう。

ゲスナーが収録した印刷本で版の同定が可能なものはのべ3,295件。ゲスナーの収録の特徴は、1冊の本の著者、訳者、編者、校訂者、序文記述者等を副出し、1冊の中に複数の著者の作品が収録されていれば著者を分出したことである。そのため重複した版を除くと2,798版となる。印刷年の範囲は1469年から1545年。印刷地の範囲は、北はハンプルク、北東はヴィリニウス、東はブラショフ、南東はコンスタンティノポリス、南はナポリ、西はリスボン。印刷地はバーゼル(1,028件774版)、ヴェネツィア(475件350版)、パリ(326件313版)、リヨン(284件275版)等。印刷業者では、ヴェネツィアのアルドが201件112版、バーゼルのペトリが182件135版、リヨンのグリフィウスが168件158版、バーゼルのフローベンが162件133版等。ゲスナーはアルド刊行『ギリシア哲学者弁論家修辞学者書簡集』(1499)に27回も言及した。

ゲスナーはアルド・マヌーツィオ（Manuzio, Aldo, ca.1450-1515）とその後継者について『総覧』第11分類地理学で彼らの活躍を賞賛して1534年の印刷販売書目録を掲載した。ゲスナーが採録したアルド版112版（ギリシア語書61版、ラテン語書50版、イタリア語書1版）は、1534年目録（ギリシア語書100タイトル70版、ラテン語書109タイトル62版、イタリア語書14タイトル13版）のうちギリシア語書61版、ラテン語書37版（イタリア語書1版を含む）、ゲスナーの手許の11版のうち9版、グロミュンスター図書館所蔵17版のうち9版が該当した。

ゲスナーは中世的な著者略伝の目録を著作の記述を主体とする書誌に転換し、印刷本の書誌記述要素を確立して版の同定を可能にし、書物の特徴を明らかにする書誌記述方法を編み出したのである。今後の課題はゲスナーが知り得た16世紀の書物世界の全貌を明らかにすることである。